

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

デイリー・ジーザス・ニュース #113

ゲネサレ（そしてガリラヤ全域）におけるイエスの癒しの働き

MK 6.53-56（並行テキスト：マタイ14.34-35）

53 彼らは川を渡ってゲネサレに上陸し、そこに停泊した。54 人々が船から降りるとすぐにその地域の^M
^T^Mはイエスを認めた。55 彼らはその地方中を走り回り、病人を敷物に乗せて、イエスがおられると聞いた所まで運んだ。

56 イエスが行かれるところはどこでも、村でも町でも田舎でも、人々は病人を広場に立たせ、イエスの着物の端にでも触れさせてくださいと懇願した。そして、それに触れた者は皆癒された。

=====

注：私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します：マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、**イエスの言葉は赤字で斜体で書かれています。**旧約聖書からの引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤ湖の西岸にあるゲネサレ
タイムライン	4月上旬（26ヶ月目）
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波
タイトル	ゲネサレ（そしてガリラヤ全域）におけるイエスの癒しの働き

コメント：

イエスは一日中宣教に励み、夜通し祈り続け、午前3時頃、激しい嵐の中、弟子たちのもとへ水上を歩いて向かわれた。弟子たちは、イエスが到着するまで、ガリラヤ湖を夜通し9時間もの間、吹き荒れる風と波に逆らって漕ぎ続けた。ゲネサレ平野の岸辺で、背後で太陽が昇る中、彼らはきっと疲れ果てながらも、意気揚々と船から飛び降りたに違いない。それは、イエスにとって奇跡的な癒しの宣教の新たな日となるはずだった。

ガリラヤ湖の北西岸。この平野は肥沃な土壤と豊かな収穫に恵まれ、ガリラヤ湖の人口密集地への玄関口となっていました。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

今日の朗読は、イエスの集団癒しの働きに関するこれまでの8番目の記述です。5000人に食事を与えた翌日、イエスがゲネサレで多くの人々を癒した様子が描かれています。さらに、マルコは、ゲネサレで起こった出来事が、イエスがガリラヤ巡礼の際に訪れたすべての町や村で起こったことの典型的であったことを示唆する記述（5.56）を記しています。

各町の市場では、病人や障害者が敷き布団の上に横たわっていました。イエスが通り過ぎる時、人々はイエスの衣の裾に触れるだけで癒されました。これは、イエスが巡礼の度に、数百、いや数千もの奇跡的な癒しを行ったことを意味します。これは、どの町や村でも、イエスにとって標準的な手順でした。

この地域に住む多くの傷ついた人々にとって残念なことに、イエスのガリラヤにおける癒しの働きは、この三度目の巡回旅行の終わりに近づき、王は数日後に他の地域へと退くことになっていたのです。

再び、イエスの惜しみない恵みと慈悲が、この癒しの溢れる業の中に示されました。イエスが仕えた人々は、献身的な弟子としてイエスに従っていたわけではありませんでした。彼らは羊飼いのいない羊であり、自分自身と愛する人たちの癒しと解放を切望していました。しかし、それだけのことでした。

イエスが近くにいらっしゃると知ると、彼らはその地方中を駆け巡り、足の不自由な人や病人を寝台に乗せて集め、イエスのもとへ運びました。ゲネサレから少し離れたカペナウムで、イエスの衣の裾に触れただけで出血が治った女性の話（デイリー・ジーザス・ニュース #96）は、明らかに広く伝わっていたようです。ゲネサレでも同じように、イエスの衣に触れただけで多くの人が癒されたのです。

マルコは、この爆発的な癒しは人々が「イエスを認めた」時に始まったと指摘しています。人々は、これが以前彼らを訪れ、会堂や市場で説教し、悪霊を追い出し、多くの人々を癒したイエスと同じ人物であることに気付きました。ガリラヤ中を巡り、あらゆる場所で宣教活動を続けていた時、彼らが耳にしていたのと同じイエスであることを彼らは確信しました。

悲しいことに、彼らはイエスについて、癒しを受けるには十分な知識しか持っていましたが、弟子として忠実に従うには至りませんでした。それでもイエスは無条件の愛をもって手を差し伸べ、力強い宣教の一貫を通して彼らの物質的な必要を満たしてくださいました。「恵み」とは「無償の恩恵」、つまり、私たちが値せず、決して得ることのできないものを、ただ与え主の善意と寛大さによって、無償の賜物として受け取ることを意味します。イエスはかつて生きた中で最も偉大な与え主でした。ゲネサレでのこの日がそれを証明しています。

応用：

イエスは、私たちがイエスを認め、親密な交わりの中でイエスに従うよう導かれることが切望しておられます。私たちが最も必要としているのは、単に一時的な奇跡的な力を体や状況の中で経験することではなく、イエスが導くところならどこへでも従う、イエスとの絶え間ない交わりです。三位一体の交わりこそが、イエスを真に信じるすべての人へのイエスからの無償の賜物なのです。

神の力はあなたを神の持続的な存在へと導いたでしょうか？

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

I. イエスの第三回ガリラヤ巡礼とその余波

イエスとの交わりは、イエスを認識すること、あるいはイエスを知ることの最大の宝です。

今日はどのようにしてイエス様とのより深い親密さを追求しますか？